

〈発表内容〉

・消防副士長 竹田誠悟 『最先着隊として』

指令課へ異動となり「現場に必要とされていないのか」と複雑な思いでいると「指令課なくして現場はない」と上司からの言葉。その後、心を入れ替え指令業務に当たっている。ある日、119番通報がワンコールで切れた。皆さんはどう感じますか。間違い？かけ直す？通報者情報を照会し傷病者の病気を知り、直ちに救急指令、自分は指令室にいるはずが、目の前にみえるのは倒れている傷病者。傷病者を救護した無線を聞いて初めて、大きな深呼吸をする。指令業務は、消防業務の第一歩を担い、全ての現場において最先着隊です。住民の皆さんにお願いがあります。間違っても119番通報をしても電話を切らないで下さい。「間違い」と分かるまで指令課員は「もしも」を考え、最悪の事態を想定して待ち続けるのです。これからも住民の命と安全を守るために現場の隊員と共に活動していくと発表した。

・消防士 高砂梨久斗 『心に寄り添う』

住民の命を救いたい思いから救命士の資格を取得し、消防士となった。軽症事案の多さから、救急活動は病院へ運ぶ作業へと変わっていった。軽症の傷病者が急変した現場を経験し、その際に上司から「傷病者にもっと向き合え」と指導されたことから、傷病者の心に寄り添った救急活動を心がけるようになった。その後、声が出せない傷病者の救急事案に出動。わずかに震えている身体に気がつくことができ、毛布を掛けた。男性は微笑み、手話で「ありがとう」と伝えてくれた。この時に心に寄り添うとは、こういうことであると気付いた。

知識や技術は大切ですが、活動の源は気持ちである。心に寄り添うことは、どれだけ時代が進んでも 消防になくってはならない志であると発表した。